

講義ユニット名	感染症	所属科目名	全身性疾患制御学
講義ユニット 責任者	たづま すずむ 田妻 進	所属	総合診療科 (内線 5461)
		メール	stazuma@hiroshima-u.ac.jp
講義ユニット コーディネーター	おおたに ゆういちろう 大谷 裕一郎	所属	総合診療科 (内線 4592)
		メール	yuichiro-otani@hiroshima-u.ac.jp
授業方法	講義形式。パワーポイントを使用して、スライドを呈示しながら進める。		
概要	<p>感染症はウイルス、細菌、寄生虫、原虫、リケッチアなどの起炎菌が体内の各臓器に感染して発症する。日常臨床においては、臨床医が必ず遭遇する疾患であり、正しい感染症の診断、治療についての知識を修得する必要がある。</p> <p>本ユニットの講義では、診療科や臓器に関係なく、感染症への理解を深めて、臨床医として必要な基本的知識を確立することを目指す。</p>		
講義ユニットの 到達目標	<p>敗血症の症候と診断と治療を説明できる。</p> <p>市中感染症と院内（病院）感染症を説明できる。</p> <p>医療器具関連感染症（血管留置カテーテル、尿道カテーテル、人工呼吸器）、術後感染症、手術部位感染症、を説明できる。</p> <p>薬剤耐性 (antimicrobial resistance &lt;AMR&gt;)、菌交代現象・菌交代症、薬剤耐性菌 (Methicillin-resistant Staphylococcus aureus &lt;MRSA&gt;)、バンコマイシン耐性腸球菌 (vancomycin-resistant Enterococci &lt;VRE&gt;)、基質特異性拡張型βラクタマーゼ (extended spectrum beta-lactamase &lt;ESBL&gt;) 産生Gram陰性桿菌、多剤耐性アシネトバクター属菌、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌等) を概説できる。</p> <p>コロナイゼーションと感染症発症の違いを説明できる。</p> <p>コンプロマイズドホストと日和見感染症を説明できる。</p> <p>新興・再興感染症（中東呼吸器症候群 (Middle East respiratory syndrome &lt;MERS&gt;)、ジカ熱、劇症型A群レンサ球菌感染症等）、人獣共通感染症、バイオテロに関連する感染症を列挙できる。</p> <p>各病原微生物、各感染臓器の診断の手がかりとなる病歴と身体所見を説明できる。</p> <p>ウイルス感染症診断における抗原検査、核酸増幅検査、血清抗体検査を説明できる。</p> <p>細菌感染症診断における直接塗抹、Gram染色、培養検査、抗原検査、核酸増幅検査、毒素検出検査、血清抗体検査を説明できる</p> <p>真菌感染症診断における直接塗抹、培養検査、抗原検査、核酸増幅検査を説明できる。</p> <p>病原微生物及び感染臓器ごとの適切な抗微生物薬を説明できる。</p> <p>抗菌薬適正使用 (antimicrobial stewardship &lt;AMS&gt;) を説明できる。</p> <p>予防接種について、適応と意義、種類とそれぞれの投与方法を説明できる。</p> <p>感染症法を概説できる。</p> <p>インフルエンザの症候と診断と治療を説明できる。</p> <p>ヒト免疫不全ウイルス&lt;HIV&gt;感染症の症候と診断と治療及び感染対策を説明できる。</p> <p>単純ヘルペスウイルス感染症、伝染性紅斑、手足口病、突発性発疹、咽頭結膜熱、伝染性単核(球)症を説明できる。</p> <p>サイトメガロウイルス&lt;CMV&gt;感染症を説明できる。</p> <p>ヒトT細胞白血病ウイルス (human T-cell leukemia virus type 1 &lt;HTLV-I&gt;) 感染症を説明できる。</p> <p>黄色ブドウ球菌感染症の症候と診断と治療を説明できる。</p> <p>A群β溶血性レンサ球菌感染症の症候と診断と治療を説明できる。</p> <p>肺炎球菌感染症の症候と診断と治療と予防法を説明できる。</p> <p>インフルエンザ(桿)菌感染症とMoraxella catarrhalis感染症を説明できる。</p> <p>緑膿菌感染症の症候と診断と治療を説明できる。</p> <p>大腸菌感染症の症候と診断と治療を説明できる。</p> <p>Clostridium difficile感染症の症候と診断と治療を説明できる。</p> <p>結核症、非結核性（非定型）抗酸菌症の症候と診断と治療及び予防法を説明できる。</p> <p>マイコプラズマ感染症を説明できる。</p> <p>レジオネラ感染症を説明できる。</p> <p>リケッチア感染症を説明できる。</p> <p>カンピロバクター、サルモネラ、リステリア感染症を説明できる。</p> <p>ニューモシスチス肺炎の症候と診断と治療を説明できる。</p> <p>主な原虫感染症（マラリア、トキソプラズマ症、アメーバ赤痢）を説明できる。</p>		

	<p>急性・慢性腎盂腎炎の病因、症候、診断と治療を説明できる。</p> <p>性感染症の原因微生物を説明できる</p> <p>梅毒の症候と診断と治療を説明できる。</p>
講義日程	別紙日程表を参照のこと
出席の取り扱い	<p>出席状況把握システムにて毎講義出席をとる。</p> <p>3分の2以上の出席がない場合は本試験の受験資格を与えない。</p>
評価項目	<p>到達目標の達成度</p> <p>(基本的理解と知識の応用)</p>
評価法	<p>MCQ形式にて試験を行う。</p> <p>本試験における合格基準は基本的には絶対基準とするが、一定の条件を満たした時(得点率60%未満の受験者が総受験者の10%を超える場合)には相対基準を適用する。相対基準は、平均得点<math>-(1\sim 2) \times</math>標準偏差とする。</p>
推奨参考書	<p>【購入を推奨する参考書】</p> <p>標準感染症学(医学書院)</p> <p>Harrison's principles of Internal Medicine</p> <p>ハリソン内科学(MEDSI)感染症</p>